

新規指定の重要文化財（建造物）

名 称	けん にん じ はつとう 建仁寺法堂		棟 数	1 棟
所 在 地	京都府京都市東山区大和大路通四条下る四丁目小松町			
所 有 者	宗教法人 建仁寺			
指定基準	(一) 意匠的に優秀なもの (三) 歴史的価値の高いもの			
建 物 名	員数	構 造 形 式		建 設 年 代
はつとう 法堂	1 棟	桁行 5 間、梁間 4 間、一重もこし付、 入母屋造、本瓦葺		明和 2 年 (1765)

〔解説〕

－江戸時代中・後期に数十年をかけ再建された、大規模な禅宗様仏堂－

建仁寺は、京都市鴨川の左岸に位置する臨済宗建仁寺派の大本山で、東山と号する。建仁 2 年（1202）に明庵栄西^{みやうあんようさい}によって創建された京都最初の禅宗寺院であり、至徳 3 年（1386）には京都五山に列した。中世には幾度の兵火に見舞われたが、近世にかけて伽藍の整備・復興が進められた。

現存の法堂は、勤行を執り行う法堂と本尊を祀る仏殿を兼用して建設されたもので、棟札等により建仁寺流大工の坂上家が棟梁大工を務めたことが判明する。前身建造物が天文 21 年（1552）に焼失した後、享保 12 年（1727）に再建が発願されたものの、38 年後の明和 2 年（1765）に上棟し、さらに文化 2 年（1805）になってようやく天井の普請に取り掛かるなど、全体の完成には長期間を要した。背景には、幕府の寺社修復助成抑制等の影響があり、様々な手段により資金調達が行われた。京都五山の大本山寺院に相応しく雄大な姿を見せ、桁行は全長 23.6 メートル、梁行は全長 19.0 メートル、天井高は 10.8 メートルを誇り、江戸時代中・後期建立の禅宗様仏堂において全国最大規模である。禅宗様の方式に則った正統的な造りを保持しつつ、各空間のプロポーションを工夫し、広大な内部空間と安定感のある外観を生み出している。長期間の資金調達を経て財政難を克服し再建された経緯も判明し、歴史的価値も高い。



建仁寺 法堂 外観



建仁寺 法堂 内観